

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・37〉	いわき市立	好間第四	小学校
＜実施日＞	平成 28 年 7 月 13 日 (水)			
＜実践教科等＞	※当てはまる番号に○を付けてください。4は () に教科等を入れてください。 1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他 ()			
＜実践内容＞	1 「放射線」について知っていることや「放射線」と聞いて思うこと、感じることを発表する。 →「こわい・危険・体に悪い」というイメージがあることを確認した。 2 放射線について捉える。 (1) 放射線事故が発生した場合に限らず、放射線が昔から存在していることを捉えさせる。副読本 (p 9 ～ p 12) ・昔からあること ・宇宙からのもの ・地面からのもの ・空気からのもの ・食べ物からのもの (2) 物を通過する働きがあることをおさえたうえで、それを利用し生活に役立っていることを捉える。 ・医療現場でのレントゲン撮影やCT検査 ・医療器具の殺菌 3 「放射線」のこわさについて捉える。 一度に大量に浴びると身体に悪いということをおさえ、表土除去などなどにより身の回りの放射線量は普段通り生活しても心配ないことを補説する。 4 普段通り生活しているなかで、健康な生活を送るために、どのように生活していけばよいか考える。 →好き嫌いなく食べて、強い体を作る。睡眠を十分に取る。家の中に閉じこもらず体を動かす。考えすぎない。放射線量が強いところには近づかない。などが出た。			
＜成果＞	・震災後に放射線が出たというイメージが強かったが、大昔から放射線はあり、原発の事故前から微量の放射線の中で生活していたことに驚く児童がいた。生活の中で役立っていることを知ることで「こわい・きけん」という考え方だけでなく違った視点でも放射線を考えることができた。 ・「放射線」のことを「忘れていた」という児童が大半だったので思い出すよい機会となった。			
＜課題＞	・目に見えない放射線をわかりやすくとらえさせるのは難しく実感がわからない。 ・人体への影響をどの程度、どのように指導すればよいか。			
資料作成担当者職 (教諭) 氏名 (吉田 朱里)	学校電話番号 (36 - 2805)			